

# KMCTの被覆銅管 サーモエコーF

## 御注意

このたび、弊社製灯油配管用「サーモエコーF」を御採用頂きありがとうございました。  
御施工に際しまして、下記事項に御留意下さるよう、宜しくお願い申し上げます。

## 危険

- 管を伸ばす際、曲げる際は、必要以上の力を加えると管の座屈・穴あき・灯油の漏洩の原因となり、火災を引き起こす可能性がありますので、丁寧に施工をお願い致します。
- 被覆を除去する際は、管軸方向にキズをつけないように御注意下さい。またタンク・機器との接続に関しては、変形・キズをチェックして異常の無い事を確認の上、確実に接続下さい。異常があるまま施工、御使用された場合、灯油の漏洩の原因となり火災を引き起こす可能性があります。
- 配管施工終了後、通油前には必ず気密テスト等により、漏れ・欠陥のない事を確認下さい。

## 警告

- コンクリート・モルタル等に直接接触する部分は、粘着テープ等で養生下さい。またその際、管に直接テープを貼らない様にして下さい。御使用されるテープの成分によっては、銅管が腐食する可能性があります。
- 土中埋設に際しては、鋭利な砂利・石・コンクリート等が直接管に当たらない様にして下さい。特に被覆が剥れた状態での埋設（裸銅管の状態での埋設）は土中の環境によっては、銅管が腐食・穴あきに至る可能性がありますので、避ける様にして下さい。
- 施工終了後、タンク・機器接続まで通油されない場合、管端部分をキャップ等で塞ぎ、管内に異物・ゴミ・水分等が浸入しない様に養生下さい。特に水分が浸入・残留した場合、水質によっては、銅管の腐食を引き起こす要因となり、穴あきに至る可能性がありますので、必ず管端を塞いで下さい。
- ろう付け・ハンダ付けを行う際、管内にフラックスが浸入しない様、また必要以上にフラックスを塗らないで下さい。またフラックスを塗った部分は、濡れタオル等で丁寧に拭取って下さい。フラックスが残留していると銅管の腐食を引き起こす要因となり、穴あきに至る可能性がありますので、必ず残留したフラックスは拭取って下さい。

## 注意

- 重量物を管の上に乗せたり、踏む等の外力を与えた場合、管の変形・破断等が生じる場合がありますので避ける様をお願い致します。
- 管の切断は必ずパイプカッターを用いて下さい。また切断する際は少しずつ刃を進めて、管が変形しないように御注意下さい。
- 灯油タンクの下方には、積雪時、管にかかる力を緩和する為、150～200φ程度に約5巻カーリングして下さい。その際、座屈しない様に筒状の型等を用いる事をお勧め致します。
- 暖房機等の高温になるものからは、離して保管・施工をする様にして下さい。暖房機等、高温になる物の近隣に施工せざるを得ない場合、被覆が溶ける事も考えられるので、耐熱カバー等で養生頂く事をお勧め致します。
- 屋外に配管する場合、紫外線の影響で樹脂が硬化、劣化する場合があります。該当する様な場所へ配管される場合、カバー等で養生頂く事をお勧め致します。